

## 現在歯数と総死亡，がん，虚血性心疾患・脳血管疾患との関連 －歯科医師集団のコホート研究による検討－

小島 正彰

松本歯科大学 大学院歯学独立研究科 健康増進口腔科学講座

The relationship between present tooth number and death from cancer,  
the prevalence ischemic heart disease and cerebrovascular disease :  
the cohort study in the dentist group

MASAAKI KOJIMA

*Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Oral Medicine,  
Matsumoto Dental University*

### 【目的】

歯の喪失が虚血性心疾患などの他臓器の疾患発生や寿命に及ぼす影響について検討するためには長期の追跡調査（コホート研究）が望まれる。しかし地域住民を対象とした場合，歯の喪失のデータ収集には歯科検診が不可欠であり，必要な労力・費用が大きい。そこで歯の喪失が死亡，およびがん，虚血性心疾患，脳血管疾患罹患のリスクに関連について検討する目的で自記式問診票によって正確な情報が得られる歯科医師を対象とした研究を行った。

### 【方法】

歯研究の対象者は歯科医師3,458名である。2001年に郵送法にて自記式調査票によるベースライン調査により喪失歯数および生活習慣などの情報を収集した。回答率は55.6%であった。このうちベースライン調査時点で対象疾患の既往がある者を除外し，さらに回答に不備のない1,874名を分析対象者とした。ベースライン調査時の平均年齢（ $\pm$ SD）は $49.5 \pm 11.0$ 歳，女性 は90名（4.8%）であった。死亡および疾病罹患情報は，参加者の書面による同意を得た上で歯科医師会が歯科医師共済制度で把握した情報を2010年12

月末までの平均9.5年間にわたり追跡調査した結果を収集した。統計学的解析では，がん罹患＋虚血性心疾患＋脳血管疾患罹患，およびこれらいずれか1つ以上合わさったものをエンドポイントとし，現在歯数群別（智歯除く）のハザード比（HR）を年齢，性別，喫煙，飲酒，BMI，精神的健康度，激しい運動の有無，睡眠時間，糖尿病・高脂血症・高血圧・降圧剤服用の有無を調整して算出した。

### 【結果】

2010年12月末までの平均9.5年間の追跡期間中に，総死亡103例が記録され，また2008年11月末までの平均7.5年間に，がん罹患75例，虚血性心疾患・脳血管疾患罹患40例が同定された。これらのいずれかを生じた者は115名であった（総合指標）。総合指標について，現在歯数24～28歯に対する14～23歯，14歯未満の多変量調整 HR は，分析対象者全体ではそれぞれ1.46（95%信頼区間0.85～2.49），1.55（同0.83～2.87）（trend  $P = 0.14$ ）と有意ではなかったが，男性に限定した分析ではそれぞれ1.54（95%信頼区間0.89～2.67），1.86（同0.99～3.51）（trend  $P = 0.046$ ）であり，現在歯数が少ないほどリスクの上昇が

あった。

総死亡、虚血性心疾患・脳血管疾患罹患についても、男性で現在歯数が少ないほどHRが高くなる傾向を認め、現在歯数24～28歯に対する14歯未満の多変量調整HRは、総死亡で2.06（95%信頼区間1.09～3.90, trend  $P=0.035$ ）、虚血性心疾患・脳血管疾患罹患では2.75（同0.97～7.77, trend  $P=0.049$ ）であった。とりわけ脳血管疾患罹患（23例）に限定した場合、5.36（同1.49～19.3, trend  $P=0.010$ ）と高値であった。

がん罹患リスクは現在歯数との間に明らかな関連を認めなかった。

#### 【結語】

十分な歯科治療が受けられると考えられる歯科医師においても、男性の場合、歯の喪失が死亡や虚血性心疾患・脳血管疾患罹患など重大疾患のリスクと関連する可能性が示唆された。

本コホート研究では、自らが研究対象者となることにより、歯科医師が口腔衛生の重要性を再認識する契機となることが期待される。